

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
こころ豊かでたくましい子	『自分のやりたい思いを実現する』 ～友達とイメージを広げる～	○自分の好きな遊びを見つけ友達と一緒に夢中になって遊びを楽しむ	○季節によって、教材、廃材を変えて子どもが楽しめる工夫をしている。また、子ども達が“やってみよう”と思える環境を作っていることで「明日は〇〇したい」「続きをしたい」と目的をもって登園する子が多い	A	A	○今年度同様、友だちと一緒に夢中になって遊ぶ環境作りに取り組んで欲しい ○教材教具・環境の準備が不十分というお話がありました。自然物、ある物でも工夫されていて素晴らしいと思いました ○子どもにすぐに必要な物を用意するのはなく、要求にすぐに答えられない事や待つことの楽しさも伝えられると良いと思う	○子ども心が動いた瞬間を見つけ、共に楽しむ ○子どもが遊びの何を楽しんでいるのか見取り、「いいね」と共感する ○自ら選んで手に取れる環境を用意する ○一人ひとりが楽しんでいる様子を友だちにも伝える事で遊びが広がっていき、皆で楽しき共有できるようにする ○子どもたちの好きな絵本からテーマを決めることで、イメージを膨らませ、遊びが広がるきっかけとなるようにする ○遊びの写真を撮って“見える化”することによって、遊びの経過やこれから遊びがどこへ向かっていくかを明確にしていく
		○子ども達の表情やつぶやきから子どもの思いをくみ取り、次に必要な教材や準備をする ○遊びの写真を撮って“見える化”する事で子どもも保育者も想像力を膨らめられるようにする ○遊びが明日に繋がるように子どもとの振り返りから環境設定を行う	○各学年ごとテーマをもって遊びを深めている。子どものつぶやきから遊びを作ったり、絵本からイメージを広げたりした所、“これが欲しい”と遊びに必要なものを要求するようになってきた ○子ども達の遊びを写真に撮り振り返りをしたことで、経過が見えて子どもや保育者のやりたことが見えるようになった	B	A		
		○乳児期より、思いに共感してもらったり、たくさん受け止めてもらう経験を積み重ねる ○発達に合った仲立ちや声かけをし、互いの思いが伝わるようにする(保育者の見守り・子ども同士の話し合い)	○保育者が子どもの思いを受け止め、価値を大事にしてその子にあった関わりや寄り添い方をしているため、子どもが自信をもって発信できるようになった ○子ども同士の話し合いの中で、思いの違いからトラブルになった時には、すぐに止めず子ども同士で解決できるよう見守ったり、言葉かけのタイミングを考えたりして援助した	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	○健康に配慮しつつも異年齢で関わる楽しさが味わえるように環境を整えたり、場を作ったりする	○発表会の劇や合奏等を互いに見せ合う中で刺激となり、年下の子ども達は、年上の子ども達にこれがの気持ちを持つことができた。発表会後もパレットを舞台にして他学年の曲に合わせて踊る姿が見られた。朝のマラソンや体操も2歳から参加して皆で取り組んでいる。その中で、年長児が2歳児と手を引いて走る姿も見られるなど優しい気持ちが育ててきた	B	A	○コロナ禍の中で異年齢の交流は課題が多く仕方ないのではと思いました。 ○状況が許せば園内で他年齢の子どもと更に交流の場を増やすことはできないかと思いました	○クラスの子ども達の遊びの様子や保育計画を伝え合い、異年齢同士で関わるができる場を意識して作っていく ○遊遊の中で異年齢の関わりが自然と出来るように、保育者間で話し合いをして共通理解を図っていく
		○個々にあった生活リズムを作ることが出来るように配慮し、早番、遅番保育の改善に取り組む	○一人一人の生活リズムを大切に、職員は連携を図ることその子にあった関わりを丁寧にしている ○季節に合わせて戸外で遊ぶ時間の確保をしている。早番遅番を見直し、乳児幼児と分かれて保育し、子どもの興味や発達に合わせて玩具の種類を増やした。それによって子ども達は、自分のやりたい遊びを楽しんでいる	B	A		
		○地域に散歩に出かけたり、地域の自然を保育に活かすことが出来るように取り組む	○海、船、駅、電車、山等様々な場所へ散策に出掛ける機会を作り用宗らしさを味わっている。また後半は、広野海浜公園にも出かけるなど散歩の距離を伸ばしてきた。散歩で持ち帰った自然物(松ぼっくり、ガラス片、貝殻)を製作に使ったり、乳児はドングリ、まつぼっくり、落ち葉をままごと遊びに使ったり、手作り玩具を作ったりして楽しんだ	B	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	○どんな小さなことも記録に残し、傾向と対策を練り危機管理の意識を高めていく ○避難場所、経路の確認、役割分担、鍵をかける時間帯を明確にして職員間で共通理解を図る	○月ごとに怪我の報告をまとめ、各クラスごと怪我の傾向と対策を来年度に活かしている。ヒヤリハットや安全面について話し合う時間を設け、全職員で共通理解を持つようにした ○毎月の避難訓練の後、課題を元に話し合い、乳児の避難も職員の連携がスムーズになってきた。子ども達自身も自分の身を守ろうとする意識が高まってきた	B	A	○危機管理という視点でヒヤリハットやケガを毎月まとめられている取り組みは素晴らしいと感じました	○けがはどんなに小さなことでも記録に残し、傾向と対策を練り危機管理の意識を高めていく ○避難場所、経路の確認、役割分担、また毎日の鍵をかける時間帯を明確にして職員間で共通理解を図る
		○食育年間計画に沿って1回の食育集会を実施する ○食育集会の内容について玄関に掲示して保護者も食に関心を持っていく	○食育の会で、視覚教材を使い子ども達にわかりやすく伝えるようにした。実際に食パンを30回かきこや、食物は水につけて膨らむところを見たり触ったりする等、五感通した体験を大切にしました。また、月1回の食育日より、食育の集いの内容やレシピをのせたりボードで食育の集いの様子伝えたりしている	B	A		
		○食育年間計画に沿って1回の食育集会を実施する ○食育集会の内容について玄関に掲示して保護者も食に関心を持っていく	○“早寝・早起き・朝ごはん”は家庭を巻き込みながら実施し、子どもの意欲や保護者の関心にもつながった。5歳児が収穫したサツマイモのクッキングでは、2歳児から4歳児が試食して秋の味覚を楽しんだ	B	A		
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	○4歳4回保護者との面談を行い、親の願いや思いに寄り添い、一人ひとりに合った支援計画を立てて教育保育を行う ○職員全体が具体的な支援方法を周知している支援体制を目指す	○保護者と面談した内容を記録に残し、個別計画書を作ってその子に合ったプランを立てている。また、保護者より悩みを聞くように努めている ○保護者の思いや専門機関より頂いたアドバイスを職員間で共有し、様々な支援方法を実践することが出来る	B	A	○支援児に対して、職員間ではなく子どもと共に取り組めると良いと思います	○見ると触ると等の五感を刺激する食育集会を実施する ○食育集会の内容について玄関に掲示して保護者にも食に関心を持ってもらう ○引き続き食育だよりに給食の人気メニューレシピを載せ保護者に発信していく ○野菜を育て旬の野菜を味わい、食に関心を持つ
		○分掌を意識し責任を持って取り組むとともに全職員が協力し、連携を取りながら教育・保育を進める ○1か月前の企画書の提出を目指し、余裕をもって保育準備が出来ようとする	○行事は分掌が責任を持ち、早めに企画を立てることによって、余裕をもって準備実施することができた。しかし、変更点を共有できなかったり、最後の確認が遅くなったりと課題もある。 ○自園は、職員数が少なく一人が抱えている分掌が多いが、皆で声を掛け合って取り組むことができた	B	B		
		○子ども達の内面の思いを肯定的に捉えて関わる。日頃思っていることを気軽に語り合える研修の実施 ○遊びが広がっていくような環境構成を整えるために教材研究をしていく	○研修では、保育者間で気軽に意見を伝えられるように3人組を使っている。皆の意見がまとめやすくなり、自分達がどこまで達成できているのか、これからどこに力を入れていけばいいのか明確になり職員間の共通理解につながった ○教材や遊びについて学び合う時間の確保が難しかった。これから園内研修で取り入れたり、作ったものを見せ合い意見交換したりしていきたい	B	B		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	○4歳4回保護者との面談を行い、親の願いや思いに寄り添い、一人ひとりに合った支援計画を立てて教育保育を行う ○職員全体が具体的な支援方法を周知している支援体制を目指す	○保護者と面談した内容を記録に残し、個別計画書を作ってその子に合ったプランを立てている。また、保護者より悩みを聞くように努めている ○保護者の思いや専門機関より頂いたアドバイスを職員間で共有し、様々な支援方法を実践することが出来る	B	A	○全体を通して子どもの思いを大事にしているという点がどのクラスも貫かれていて、園経営に芯があって素晴らしいと思います ○クラスの職員の連携は素晴らしいと感じていますが、学年の違う先生との連携はどうか?	○来年度も年4回保護者との面談を行い、親の願いや思いに寄り添い、一人ひとりに合った支援計画を立てて教育保育を行う ○具体的な支援方法を職員間で共有し実践していく
		○分掌を意識し責任を持って取り組むとともに全職員が協力し、連携を取りながら教育・保育を進める ○1か月前の企画書の提出を目指し、余裕をもって保育準備が出来ようとする	○行事は分掌が責任を持ち、早めに企画を立てることによって、余裕をもって準備実施することができた。しかし、変更点を共有できなかったり、最後の確認が遅くなったりと課題もある。 ○自園は、職員数が少なく一人が抱えている分掌が多いが、皆で声を掛け合って取り組むことができた	B	B		
		○子ども達の内面の思いを肯定的に捉えて関わる。日頃思っていることを気軽に語り合える研修の実施 ○遊びが広がっていくような環境構成を整えるために教材研究をしていく	○研修では、保育者間で気軽に意見を伝えられるように3人組を使っている。皆の意見がまとめやすくなり、自分達がどこまで達成できているのか、これからどこに力を入れていけばいいのか明確になり職員間の共通理解につながった ○教材や遊びについて学び合う時間の確保が難しかった。これから園内研修で取り入れたり、作ったものを見せ合い意見交換したりしていきたい	B	B		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	○分掌を意識し責任を持って取り組むとともに全職員が協力し、連携を取りながら教育・保育を進める ○1か月前の企画書の提出を目指し、余裕をもって保育準備が出来ようとする	○行事は分掌が責任を持ち、早めに企画を立てることによって、余裕をもって準備実施することができた。しかし、変更点を共有できなかったり、最後の確認が遅くなったりと課題もある。 ○自園は、職員数が少なく一人が抱えている分掌が多いが、皆で声を掛け合って取り組むことができた	B	B	○全体を通して子どもの思いを大事にしているという点がどのクラスも貫かれていて、園経営に芯があって素晴らしいと思います ○クラスの職員の連携は素晴らしいと感じていますが、学年の違う先生との連携はどうか?	○分掌の役割分担を明確にし責任を持って取り組む。企画書は早め(前月)の提出を心掛け、余裕をもって保育準備が出来ようとする。また、変更点を報告しあい共通理解を持つ
		○子ども達の内面の思いを肯定的に捉えて関わる。日頃思っていることを気軽に語り合える研修の実施 ○遊びが広がっていくような環境構成を整えるために教材研究をしていく	○研修では、保育者間で気軽に意見を伝えられるように3人組を使っている。皆の意見がまとめやすくなり、自分達がどこまで達成できているのか、これからどこに力を入れていけばいいのか明確になり職員間の共通理解につながった ○教材や遊びについて学び合う時間の確保が難しかった。これから園内研修で取り入れたり、作ったものを見せ合い意見交換したりしていきたい	B	B		
		○子ども達の内面の思いを肯定的に捉えて関わる。日頃思っていることを気軽に語り合える研修の実施 ○遊びが広がっていくような環境構成を整えるために教材研究をしていく	○研修では、保育者間で気軽に意見を伝えられるように3人組を使っている。皆の意見がまとめやすくなり、自分達がどこまで達成できているのか、これからどこに力を入れていけばいいのか明確になり職員間の共通理解につながった ○教材や遊びについて学び合う時間の確保が難しかった。これから園内研修で取り入れたり、作ったものを見せ合い意見交換したりしていきたい	B	B		
6 研修	(1)研修体制の充実	○子ども達の内面の思いを肯定的に捉えて関わる。日頃思っていることを気軽に語り合える研修の実施 ○遊びが広がっていくような環境構成を整えるために教材研究をしていく	○研修では、保育者間で気軽に意見を伝えられるように3人組を使っている。皆の意見がまとめやすくなり、自分達がどこまで達成できているのか、これからどこに力を入れていけばいいのか明確になり職員間の共通理解につながった ○教材や遊びについて学び合う時間の確保が難しかった。これから園内研修で取り入れたり、作ったものを見せ合い意見交換したりしていきたい	B	B	○迎え時に16:00~16:30の混雑時に違うクラスの先生の場合、連絡事項や、待ち時間が長くなりがちのときがあります	○視点を絞った話し合いができるようにする ○皆で気軽に話し合ったり、教材研究する機会を持ち充実した保育に繋げていく
		○子ども達の内面の思いを肯定的に捉えて関わる。日頃思っていることを気軽に語り合える研修の実施 ○遊びが広がっていくような環境構成を整えるために教材研究をしていく	○研修では、保育者間で気軽に意見を伝えられるように3人組を使っている。皆の意見がまとめやすくなり、自分達がどこまで達成できているのか、これからどこに力を入れていけばいいのか明確になり職員間の共通理解につながった ○教材や遊びについて学び合う時間の確保が難しかった。これから園内研修で取り入れたり、作ったものを見せ合い意見交換したりしていきたい	B	B		
		○子ども達の内面の思いを肯定的に捉えて関わる。日頃思っていることを気軽に語り合える研修の実施 ○遊びが広がっていくような環境構成を整えるために教材研究をしていく	○研修では、保育者間で気軽に意見を伝えられるように3人組を使っている。皆の意見がまとめやすくなり、自分達がどこまで達成できているのか、これからどこに力を入れていけばいいのか明確になり職員間の共通理解につながった ○教材や遊びについて学び合う時間の確保が難しかった。これから園内研修で取り入れたり、作ったものを見せ合い意見交換したりしていきたい	B	B		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	○遊びのルールを子ども達と考える、その中で自主的に遊べる環境を整える ○職員間でもルールの共有をして共通理解を図る	○幼児園庭の遊び方について幼児会議で話し合い進めてきた。後半は乳児も幼児園庭で遊ぶ機会が増えてきたので、ルールについて再度職員間で確認をした ○全職員への伝達は朝の打ち合わせノートで知らせたり、会議後は誰が誰に伝えるかを明確にして伝達したりしてルールを共有している	B	B	○子どもが自由に遊べる環境を用意する。用具の出し方について、皆で話し合い子どもが自由に使えるようにする ○遊具の使い方について皆で共通理解をしていく	
		○子ども達の遊びや行事への取り組みの過程をクラスだよりや写真などで掲示して保護者に伝える ○保育・教育の中で大切にしていることや育ったことをおたより等で保護者に伝えていく	○毎日のボードに写真を取り入れたことで、保護者がよく見てくれるようになった。参観や面談を通して子ども達の育ちや保育者の願い、子どもの遊びの経過などを伝えることができた。保育者の願いが載るボードを作成することにより保育者自身の振り返りの場となっている	A	A		
		○他園の公開保育に参加し、良い所や教育・保育の実践の学びを園に持ち帰り職員に伝達をする ○鉛筆の持ち方教室、学校訪問、授業参観を行う(小学校) ○粘土教室と一緒に参加(地域のこども園)	○全職員が地域の公開保育に参加し、他園の保育を見て学び職員に伝達をしたり、他園の良いところを自園でも取り入れたりとしている。小学校とは授業参観が出来た学校もあった(1校)。これからも小学校との交流の場を作っていく ○年長児は、広野こども園の友だちと一緒にサッカー教室に参加してゲームを楽しんだ。また、東新田こども園とは、リレー対決を行うなど隣園と交流している	B	B		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	○子ども達の遊びや行事への取り組みの過程をクラスだよりや写真などで掲示して保護者に伝える ○保育・教育の中で大切にしていることや育ったことをおたより等で保護者に伝えていく	○毎日のボードに写真を取り入れたことで、保護者がよく見てくれるようになった。参観や面談を通して子ども達の育ちや保育者の願い、子どもの遊びの経過などを伝えることができた。保育者の願いが載るボードを作成することにより保育者自身の振り返りの場となっている	A	A	○写真を使ったボードを作り、遊びがどこに向かっていくのかや、遊びの経過が保護者に伝わるようにする ○保育者の子ども達の思いを大切にしている事や、願いが保護者に伝わるようにする	
		○他園の公開保育に参加し、良い所や教育・保育の実践の学びを園に持ち帰り職員に伝達をする ○鉛筆の持ち方教室、学校訪問、授業参観を行う(小学校) ○粘土教室と一緒に参加(地域のこども園)	○全職員が地域の公開保育に参加し、他園の保育を見て学び職員に伝達をしたり、他園の良いところを自園でも取り入れたりとしている。小学校とは授業参観が出来た学校もあった(1校)。これからも小学校との交流の場を作っていく ○年長児は、広野こども園の友だちと一緒にサッカー教室に参加してゲームを楽しんだ。また、東新田こども園とは、リレー対決を行うなど隣園と交流している	B	B		
		○子ども達の遊びや行事への取り組みの過程をクラスだよりや写真などで掲示して保護者に伝える ○保育・教育の中で大切にしていることや育ったことをおたより等で保護者に伝えていく	○毎日のボードに写真を取り入れたことで、保護者がよく見てくれるようになった。参観や面談を通して子ども達の育ちや保育者の願い、子どもの遊びの経過などを伝えることができた。保育者の願いが載るボードを作成することにより保育者自身の振り返りの場となっている	A	A		
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	○他園の公開保育に参加し、良い所や教育・保育の実践の学びを園に持ち帰り職員に伝達をする ○鉛筆の持ち方教室、学校訪問、授業参観を行う(小学校) ○粘土教室と一緒に参加(地域のこども園)	○全職員が地域の公開保育に参加し、他園の保育を見て学び職員に伝達をしたり、他園の良いところを自園でも取り入れたりとしている。小学校とは授業参観が出来た学校もあった(1校)。これからも小学校との交流の場を作っていく ○年長児は、広野こども園の友だちと一緒にサッカー教室に参加してゲームを楽しんだ。また、東新田こども園とは、リレー対決を行うなど隣園と交流している	B	B	○コロナ対応でいろいろ迷ったり、悩んだりする事が多かったと思いますが、工夫されていると思います	○学校訪問、授業参観(小学校) ○粘土教室やサッカー教室と一緒に参加する(地域のこども園)
		○子ども達の遊びや行事への取り組みの過程をクラスだよりや写真などで掲示して保護者に伝える ○保育・教育の中で大切にしていることや育ったことをおたより等で保護者に伝えていく	○毎日のボードに写真を取り入れたことで、保護者がよく見てくれるようになった。参観や面談を通して子ども達の育ちや保育者の願い、子どもの遊びの経過などを伝えることができた。保育者の願いが載るボードを作成することにより保育者自身の振り返りの場となっている	A	A		
		○子ども達の遊びや行事への取り組みの過程をクラスだよりや写真などで掲示して保護者に伝える ○保育・教育の中で大切にしていることや育ったことをおたより等で保護者に伝えていく	○毎日のボードに写真を取り入れたことで、保護者がよく見てくれるようになった。参観や面談を通して子ども達の育ちや保育者の願い、子どもの遊びの経過などを伝えることができた。保育者の願いが載るボードを作成することにより保育者自身の振り返りの場となっている	A	A		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	○地域の交流準備が保育の中でできるように保育を組み立てる ○地域の〇〇名を呼んで交流をする ○おしゃべりサロンの参加者を増やすために、お母さんたちのニーズに合った内容を考えていく	○コロナの状況を把握し、感染対策に努めながら地域の行事(歳クラブ、しろクラブ等)に参加した。地域のお年寄りの方と一緒に肩たたきやわらべ遊びで交流し、喜んで頂いた経験が自分達の自信につながった ○おしゃべりサロンでは毎回楽しみに参加して下さる方がいるが、1年を通してみると、講師の方によるふれあい遊びの会が特に参加人数が多かった	B	A	○地域との連携を大切に、行事に積極的に参加することで、地域とのつながりが深まるようにする	
		○子ども達の遊びや行事への取り組みの過程をクラスだよりや写真などで掲示して保護者に伝える ○保育・教育の中で大切にしていることや育ったことをおたより等で保護者に伝えていく	○毎日のボードに写真を取り入れたことで、保護者がよく見てくれるようになった。参観や面談を通して子ども達の育ちや保育者の願い、子どもの遊びの経過などを伝えることができた。保育者の願いが載るボードを作成することにより保育者自身の振り返りの場となっている	A	A		
		○子ども達の遊びや行事への取り組みの過程をクラスだよりや写真などで掲示して保護者に伝える ○保育・教育の中で大切にしていることや育ったことをおたより等で保護者に伝えていく	○毎日のボードに写真を取り入れたことで、保護者がよく見てくれるようになった。参観や面談を通して子ども達の育ちや保育者の願い、子どもの遊びの経過などを伝えることができた。保育者の願いが載るボードを作成することにより保育者自身の振り返りの場となっている	A	A		